



建築物点検シリーズⅡ

敷地編その2

前号に引き続き、今回も敷地編についてご紹介いたします。
 建物の点検に集中するあまり、つい見落とししやすい敷地等の点検ですが、実際は危険が多く潜んでいます。

特に擁壁、塀については、通行者等の人命に関わることもあり、点検はより慎重に行う必要があります。今回はそれらの点検についてご説明いたします。

まず点検する際は、車等の通行に十分注意してください。

また、隣地との境界になっている塀等の場合、近隣住民とのトラブルを避けるため、必ず主旨を説明した上で点検されることをおすすめします。

服装ですが、外まわりは汚れやすいところが多いので、できれば作業服、ゴム長靴等での点検がよいでしょう。

なお、最近では塀に落書きされる等の事件も発生しております。点検時だけでなく、日頃からのチェックも大切だと思われまます。

 部位：擁壁等		劣化現象等
方法：【目視】	点検周期 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・著しい傾き、き裂、はらみ等はないか。 ・転倒のおそれはないか。 ・水抜き穴のつまりはないか。
		対応策・応急措置等
		<ul style="list-style-type: none"> ・劣化現象の原因を確認する。転倒などに進行するおそれがある場合は立ち入り禁止措置を講じる。



 部位：塀		劣化現象等
方法：【目視】	点検周期 3年	<ul style="list-style-type: none"> ・金属フェンス等に著しい変形、破損、錆、腐食、ゆるみ等はないか。 ・基礎部に著しいき裂等はないか。
		対応策・応急措置等
		<ul style="list-style-type: none"> ・軽度のさびはケレンのうえ塗装改修。 ・著しい基礎の損傷はコンクリートの根巻直し等を検討する。



平成19年度 官庁施設地区保全連絡会議アンケート結果のお知らせ

前号で報告しました今年度の「官庁施設保全連絡会議」において、東北各県の参加者の皆様にはアンケートにご協力頂き、誠に有り難うございました。

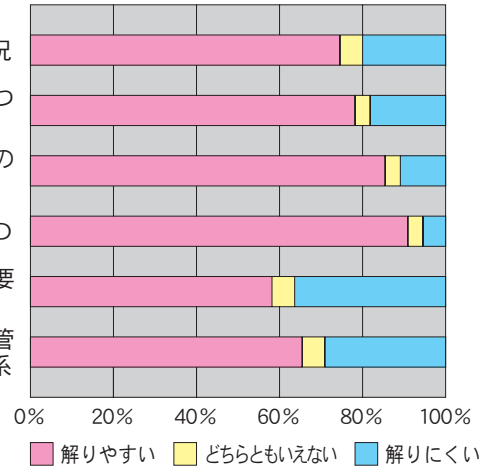
回答いただいたアンケートについて簡単にまとめてみましたので報告いたします。

アンケートでは、各議題についての「内容の理解度」及び「説明時間」について設問させていただきました。

右のグラフによりますと「内容の理解度」では「解りやすい」との回答も多かったのですが、説明資料が見にくかったり、説明が早口で聞き取りにくいとの意見もいただいております。

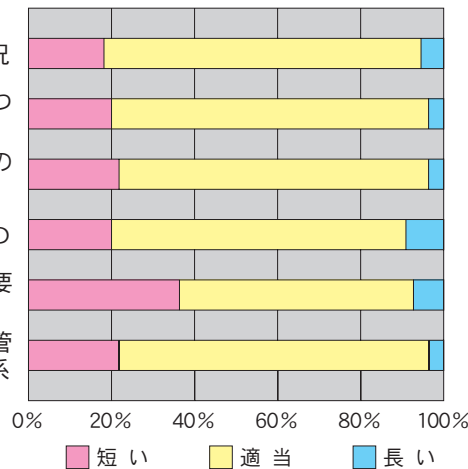
(内容の理解度)

- 国家機関の建築物等の保全の現況
- 保全業務支援システムの活用について
- 国家機関の建築物の定期点検等の実施について
- 建築物点検マニュアルの説明DVD
- 「地球温暖化政府実行計画」の概要と推進について
- 平成20年度各所修繕・庁舎維持管理費要求単価・災害時の連絡体系



(説明時間)

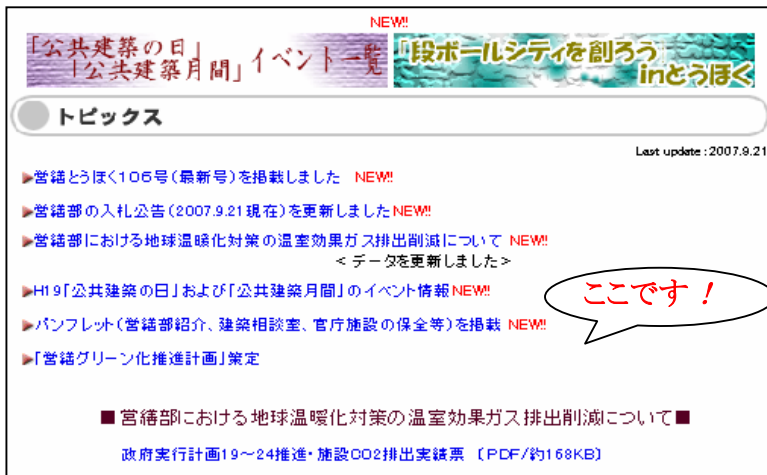
- 国家機関の建築物等の保全の現況
- 保全業務支援システムの活用について
- 国家機関の建築物の定期点検等の実施について
- 建築物点検マニュアルの説明DVD
- 「地球温暖化政府実行計画」の概要と推進について
- 平成20年度各所修繕・庁舎維持管理費要求単価・災害時の連絡体系



「説明時間」の回答傾向では、左グラフにもあるように、「地球温暖化対策政府実行計画」の説明時間が短かったとの回答が多く寄せられました。時節柄、関心が高い議題ということもあつたと思いますが、内容にあつた時間配分を心掛けていきたいと思つています。

また、説明時に紹介しました施設から排出されるCO2の実績を把握できるツールについては、当整備局営繕部のホームページ(左図参照)に参考掲示しております。東北ではエネルギー使用量に大きな影響を及ぼす本格的な冬の到来を迎えますので、活用希望の方はご連絡下さい。送付します。

その他の意見として、例年の傾向ですが、事務職の方が多いため専門的な知識・経験不足に大変苦慮されていることや、会議が短時間の中で盛り沢山の議題であつたとの意見も寄せられましたので、今後の会議運営に反映させていきたいと考えております。



東北地方整備局ホームページの「官庁営繕」からのトップ画面